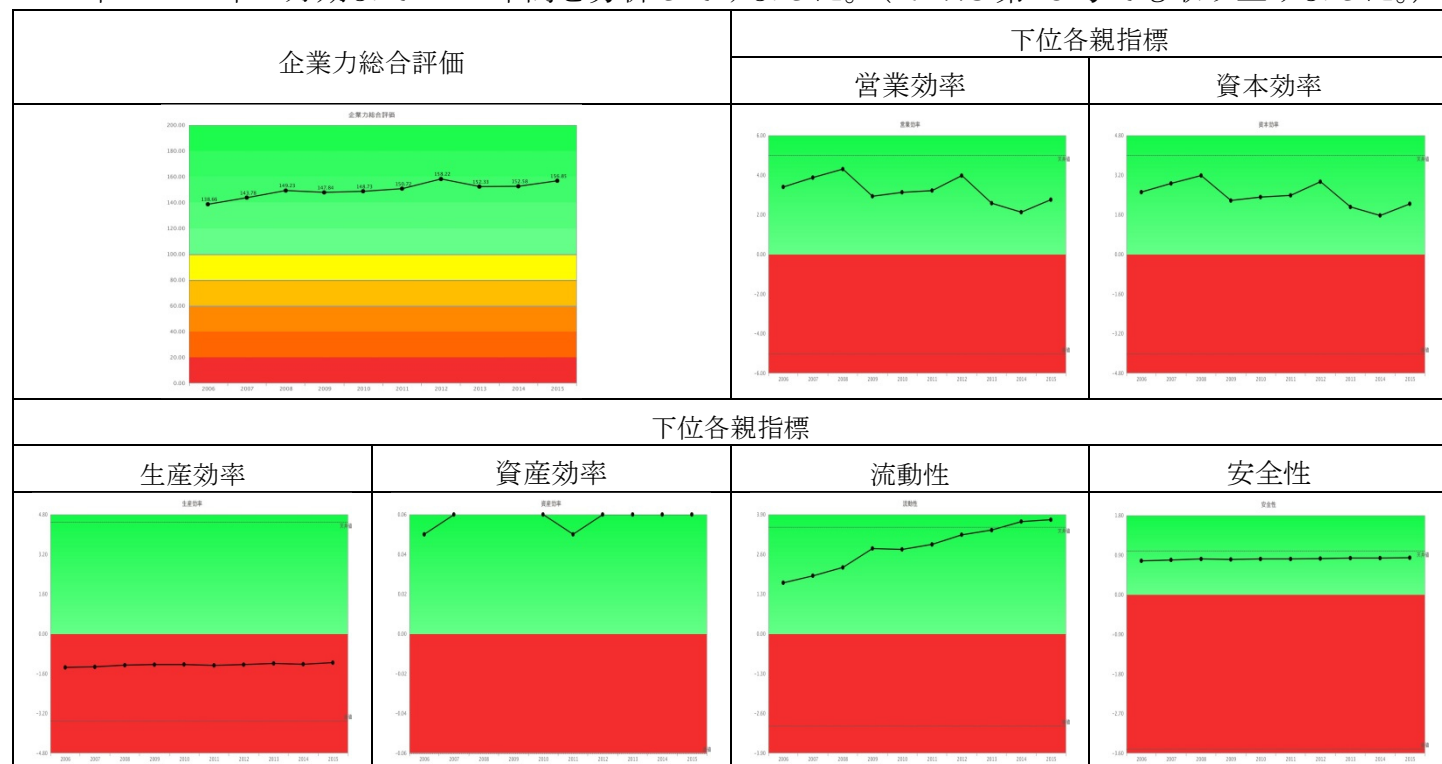


今回は、株式会社ロック・フィールドを分析してみました。どの百貨店にも「RF1」や「神戸コロッケ」のお惣菜売り場を見つけることが出来ます。女性の社会進出に伴って人口減少時代においても市場規模が伸びている中食業界の雄はどのような経営状況でしょうか。

2006 年～2015 年 4 月期までの 10 年間の分析してみました。(NEWS 第 43 号でも取り上げました。)



企業力総合評価は、138.66P→143.78P→149.23P→147.84P→148.73P→150.72P→158.22P→152.33P→152.58P→156.85P と推移している。企業力総合評価が改善トレンドを 10 年も維持する会社は、「どうやったら会社が伸びるか。」が分かっており、ブレなく邁進している会社であると言えます。営業効率（儲かるか指標）・資本効率（株主評価指標）は、緩やかな悪化トレンドですが、青信号領域を維持しています。惣菜業のトップ企業(株)ロック・フィールドが、儲からなくなっているとはどういことでしょうか。右表の後でその意図を説明します

生産効率（人の利用度指標）は、10 期連続赤信号領域にあります。1 人当たり売上高が 10,287 千円→10,584 千円→11,096 千円→11,096 千円→10,921 千円→10,699 千円→10,897 千円→10,632 千円→10,544 千円→10,674 千円と推移しており、上下のブレが 10,700 千円を中心に 4%以内と、高度に管理されています。人件費が一番高い投資という認識があり、この指標から目を離さないでしょう。1 人当たり売上高を注視する経営は伸びている会社に見られる共通の特徴です。

資産効率（資産の利用度）は、青天井で、すこぶる良いようです。

流動性（短期資金繰り指標）は、改善トレンドで天井値となりました。

安全性（長期資金繰り指標）は、10 年連続天井値です。

(株)ロック・フィールドの経営についての数字以外の考察は他に任せるとして、SPLENDID21 では数字のみから、「どのような数字を目指しているか。」に特化して考察してみたいと思います。昨今、経営計画を作成し、自社の進むべき道の数値目標を設定する会社もあります。しかし、数値目標自体が、成長セオリーを実践できている他社をベンチマークしたものでなく、増収・増益、

借入額の減少が目立つ事例が多く見受けられます。確かに、それは改善計画ではあるでしょう。しかし、売上・利益・借入額は、他の勘定科目や財務指標と相互関連性があり、循環しながら改善・悪化を繰り返すことを鑑みれば、もっと詳しく数字についての考察をしなければ成長は覚束ないでしょう。優秀な(株)ロック・フィールドでさえ、営業効率の緩やかな悪化を受け入れつつ、全体としての企業力総合評価を改善していることを確認して頂きたいと思えます。

下記 1～8 までは、増加率指標と実数、5 及び 9～14 までは安全性指標と実数を示します。

単位:百万円

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	06～15 増加率
1 経常利益	2,014	2,281	2,546	1,953	2,040	2,122	2,590	1,905	1,680	2,007	-0.35%
2 経常利益増加率	0.00%	13.24%	11.62%	-23.29%	4.45%	4.02%	22.05%	-26.45%	-11.81%	19.46%	
3 売上高合計	41,880	44,433	46,904	47,072	45,781	46,339	49,158	48,835	48,956	48,877	16.71%
4 売上高増加率	0.00%	6.10%	5.56%	0.36%	-2.74%	1.22%	6.08%	-0.66%	0.25%	-0.16%	
5 資産合計	26,047	25,808	25,905	26,377	27,336	28,095	29,003	28,850	28,439	29,338	12.63%
6 総資本増加率	0.00%	-0.92%	0.38%	1.82%	3.62%	2.78%	3.23%	-0.52%	-1.42%	3.16%	
7 総従業員数(人)	4,071	4,198	4,227	4,242	4,192	4,331	4,511	4,593	4,643	4,579	12.48%
8 従業員増加率	0.00%	3.12%	0.69%	0.35%	-1.18%	3.32%	4.16%	1.82%	1.09%	-1.38%	
9 純資産合計	18,683	19,476	20,178	20,572	21,114	21,643	22,559	22,863	23,251	23,998	28.45%
10 固定資産合計	16,729	16,570	15,777	16,202	15,782	15,796	15,508	15,366	14,863	13,898	-16.92%
11 固定比率	89.54%	85.08%	78.19%	78.76%	74.75%	72.98%	68.74%	67.21%	63.92%	57.91%	-35.32%
12 固定負債合計	2,141	1,457	692	1,354	1,103	1,145	950	638	602	459	-78.56%
13 固定長期適合比率	80.34%	79.16%	75.60%	73.89%	71.04%	69.32%	65.97%	65.38%	62.31%	56.83%	-29.26%
14 自己資本比率	71.73%	75.46%	77.89%	77.99%	77.25%	77.04%	77.78%	79.25%	81.75%	81.80%	14.04%

1 番と 3 番を比較して下さい。経常利益は 10 年横ばいですが、売上高は 16.71%増加しています。まるで、利益率を犠牲にし、市場占有率を高め、経常利益 2,000 百万円確保を目指しているかのようです。実はこのような数値目標の会社は、成功している事例は多いのです。SPLENDID21NEWS 第 100 回記念号をご覧ください。生産効率で同じような目標設定している会社を確認できます。

3 番と 5 番と 10 番を比較して下さい。売上を上げれば資産は増加します。資産額は増加していますが、売上の伸びに必要な設備投資を計測する固定資産は減少しています。通常、増えてやむなしの固定資産を減少させているのです。

3 番と 7 番を比較して下さい。従業員の増加を売上高の増加が上回っています。従業員の教育訓練や販売活動を支援する方策に力を入れている筈です。人口減少時代は、人材確保が難しくなることを見越しての対応であろうと思われま。

9 番と 12 番を比較して下さい。固定負債が大きく減少し純資産が増加しています。固定負債は通常、社債・長期借入金です。これらが減って純資産を 28.45%も増加させています。自己資本比率(14 番)は 81.80%となりました。

まるでいつ何が起こっても会社を守り抜ける体制の構築に余念がないようです。

まとめ

金融機関に提出を求められる経営計画の精度は、借入や返済を円滑に行う目的で作成され、金融機関が納得すれば事足ります。しかし、経営者は企業の存続・成長の為の経営計画とその実践を求められます。経営計画が不完全である、目指すべき数字に適切性がないなど、経営計画の達成と企業の成長とが一致しなければ、意味はありません。会計の力をもっともっと活用すべき厳しい時代なのです。

お問合せ先 SPLENDID21 に関するお問合せは下記までお願いいたします。

〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目 6 番 5 号 税理士法人 諸井会計
tel 0952-23-5106 fax 0952-22-2888 ☎ info@moroi.co.jp URL <http://www.moroi.co.jp/>